様式④

教員活動状況報告書

提出日：令和　5　年　3　月　10　日
所　属：　獣医　学部　　動物応用科学科
氏　名：　久世　明香　　職位：　講師
役　職：

Ⅰ　ティーチング・ポートフォリオ

１．教育の責任（教育活動の範囲）

人間社会と密接に関わる伴侶動物を中心に、動物の行動やメカニズム、人間社会における相互作用について学生が理解し、実際の動物に応用可能な分析力や技能を習得することを教育責任として、講義および実習を担当している。

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
動物応用科学概論（分担）	動物応用科学科	必	1	150
動物人間共生論（分担）	動物応用科学科	必	1	153
動物応用科学実習（分担）	動物応用科学科	必	1	158
基礎ゼミ	動物応用科学科	必	1	155
動物行動神経科学	動物応用科学科	必	2	127
動物行動治療学	動物応用科学科	選	3	89
応用動物心理学実習	動物応用科学科	選	3	51
専門ゼミ	動物応用科学科	必	3	4
動物発達行動学実習	動物応用科学科	選	4	17
科学の伝達	動物応用科学科	選	4	1
卒業論文	動物応用科学科	必	4	1
基礎・小動物獣医総合臨床Ⅲ（分担）	獣医学科	必	4	135

２．教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

動物の行動は、遺伝・経験（学習）・環境が相互に影響し、表出されるものである。当然、個体差が存在し、動物にとって正常な行動であっても、人間社会では問題視されることもある。動物が行動を示す理由をできるだけ論理的かつ客観的に説明することは、現代社会における動物に関連した問題の根本的な解決方法の考案および実践に必須であり、新たな謎の発見とさらなる動物の理解につながると考えている。また、動物の情動や学習といった行動のメカニズムは、私たち人間にも共通することから、他者を理解し、コミュニ

ケーションや共同作業を円滑に行うことにも貢献できると期待している。このような「考える力」と「動く力」を備えることは、本学で取り組んでいる実践的ジェネラリストの育成と共通するものであり、実社会での活躍に大いに役立つと考えている。

３．教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

・「考える力」を育てるための取り組み

論理的に考える過程を重視するため、まず具体例を用いて理論や知識を説明し、次に具体例に当てはめて考える機会を設けている。また、理論や知識を正しく理解するためには、学生が興味を持ちやすくなる工夫も必要であると考え、理論や知識が発見された過程を紹介したり、身近な例や現象を取り上げて解説するようにしている。特に犬にトレーニングを行う実習科目では、動画教材による事前学習をもとにトレーニング方法をあらかじめ考案し、実習時間に実践し、トレーニングの結果を記録・検証するという PDCA サイクルにもとづいた構成で実施している。

・「動く力」を育てるための取り組み

動物の行動や人間と動物の共生をテーマに、グループワークやディスカッションを取り入れることで、調査結果を発表する機会、自身の考えを表現する機会、他者と協調して活動する機会を設けている。特に犬にトレーニングを行う実習科目では、人間の振る舞いが直接的に犬の行動に作用し、臨機応変な対応が求められることになるため、自主性と協調性の両者を養う場になる。

アクティブラーニングについての取組

授業・実習の内容に合わせ、反転授業、インタラクティブ投票ツールを用いたクイズ、グループワーク、学生間の相互コメントなどを取り入れている。

ICT の教育への活用

學理を利用した小テストの実施、反転授業のために動画教材を作製している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）
②学生の理解度の把握（B）
③学生の自学自習を促すための工夫（B）
④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）
⑤双方向授業への工夫（B）
※A（十分実施している）B（実施しているが十分でない）C（うまく取り組めていない）

コロナ禍を経て、対面授業を行うことができ、グループワークを多く行うことができた。特に、応用動物心理学実習では、短期間ながらも保護犬の飼育や保護活動の手伝いなど、かなり実践的な内容を取り込むことができ、学生の満足度も高かった。昨年度に引き続き、動画教材による事前学習を行ったが、一定の学修効果が得られたと考えている。一方で、班ごとに進捗状況が異なることがあり、これを完全に避けることはできないが、工夫が必要であると思われた。次年度以降は、あらかじめ班内でコミュニケーションを取る機会を設けることで、グループワークがしやすい環境を作ってから実際の作業に入るという流れを検討している。

5.学生授業評価（分量の目安：４～7 行（160 字～280 字））
①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。
グループワークの回数を増やした。

② ①の結果はどうでしたか。
グループワークを増やした分、座学の回数が減り、時間内に終えられない回があった。学生からはグループワークのさらなる増加の要望があった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。
グループワークをさらに増やし、座学の一部は予習復習により習得できるようにする。

6.学生の学修成果（分量の目安：４～7 行（160 字～280 字））
①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。
大学で学ぶことが、知識の暗記ではなく、知識の活用と新たな疑問の発掘になるよう、理論と応用・実践を組み合わせた内容が重要であると考えている。それにより、学生が意欲的に学び、成績向上につながると考えられる。これは、授業内容の工夫に限らず、研究活動でも得られるため、両者を関連付けて教育を進めていきたい。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）（分量の目安：1～2 行（40 字～80 字））
できるだけ参加するようにしているが、開催時間の関係で参加が難しい場合は、後日オンラインで受講するようにしている。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

・短期目標：具体的かつ比較的短期間で到達できる課題を与えることで、自ら取り組み、成功体験を積むことで、意欲が上がるような工夫をする。また、後輩を含め、他者に説明する機会をできるだけ多く設けることで、自らの考えを整理したり、自身が取り組んでいることへの理解を深めるようにする。

・長期目標：上記を通して、自ら疑問や課題を発見し、その疑問を解くための方法や対策を考案し、自ら実践し、その結果を検証できるような人材を育成する。これが実践的ジェネラリストの育成になると考えている。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

各科目のシラバス、學理（講義資料、動画教材、小テスト、レポート課題、学生評価を含む）、試験問題

研究室ゼミのプログレス資料・論文紹介資料

参考
※　ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ　スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会　編）から引用）

（自ら作成するもの）
1. 授業に関するもの
   シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）
2. 教育改善に関するもの
   （教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）
1. 学生から
   授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント
2. 同僚から
   授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績
3. 大学／学会等から
   教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）
　授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡